

2015年のクラシック音楽界を振り返って

◆生誕150年クラスノフとニールセン ◆追悼－モラヴェッツとオブラストワ

◆小澤征爾80歳バースティ・コンサート を偲んで

プログラム

2015年も残すところ1ヶ月少しとなりました。今日はこれまでご紹介出来なかったアニヴァーサリー作曲家、今年亡くなった名演奏家、話題のコンサート等をまとめてご紹介することにしました。

イヴァン・モラヴェッツ(1930.11.9～2015.7.27)はチェコ、プラハ生まれの名ピアニストで、16歳でデビュー、1964年セル&クリーヴランド管との共演以降、国際的な名声を確立しました。明快なタッチと透明感のある美しい響きは独特の魅力を持っていました。**エレナ・オブラストワ**(1937.7.7～2015.1.12)はロシア、レニングラード生まれの名メゾ・ソプラノで、1964年ポリショイ劇場でデビュー、1975年には「カルメン」でウィーン国立歌劇場にもデビューし、西側諸国で最初に名声を得た旧ソヴィエト歌手の一人となりました。オペラで聴く張りのある力強く豊かな声は最も魅力的ですが、歌曲で聴く情感たっぷりの味わいもまた魅力でした。

ロシアの作曲家**クラスノフ**はリムスキー・コルサコフを師とするロシア的な色彩を基調としながら、ドイツ音楽や他のヨーロッパ音楽の音楽様式を吸収して独特の音楽を作り出しました。8曲の交響曲(第5番が最も知られた名曲)、交響詩など多くの作品を残していますが、今日は代表的な2作品、ヴァイオリン協奏曲とロシア・バレエの名作のひとつ「四季」から秋をお聴きください。デンマークの作曲家**ニールセン**は、異なった調性を同時に用いる“多調性”を多用するなど革新的な手法で独自の地位を占めています。各ジャンルに多くの作品を残していますが、中でも6曲の交響曲は重要で、第4番「不滅」と第5番が最も良く知られています。第4番「不滅」は生命の不滅の力を表現した名曲です。わが国を代表する名指揮者**小澤征爾**(1935.9.1生まれ)が、今年80歳の誕生日を迎え、バースティ・コンサートが行われました。そこで実現したのが名女流ピアニスト、マルタ・アルゲリッチとの共演です。演奏される機会の少ないベートーヴェンの「合唱幻想曲」で素晴らしい演奏が生まれました。今後の活躍を願わずにはられません。

クロード・ドビュッシー(1862～1918):

組曲“子供の領分”～1.クラドゥス・アド・バルナツスム博士/6.ゴリウオックのケーキウォーク

フレデリック・ショパン(1810～1849):

バラード第1番ト短調op.23

イヴァン・モラヴェッツ(ピアノ)

(1993.5.4 ザルツブルク、モーツアルテウムでのLive)

アレクサンドル・クラスノフ(1865～1936):

ヴァイオリン協奏曲イ短調op.82

庄司紗矢香(ヴァイオリン)/セミヨン・ビシユコフ指揮ケルン放送交響楽団

(2006.4.28 ケルン・フィルハーモニーホールでのLive)

バレエ音楽“四季”～秋

ネーメ・ヤルヴィ指揮スコティッシュ・ナショナル管弦楽団

(1987.10.4 サントリーホールでのLive)

*** 休憩 ***

ジョルジュ・ビゼー(1838～1875):

歌劇“カルメン”～第1幕 ハバネラ“恋は野の鳥”

エレナ・オブラストワ(メゾ・ソプラノ)/ジョセフ・ローゼンストック指揮NHK交響楽団

(1972.12.2 東京文化会館大ホールでのLive)

ミハイル・クリンカ(1804～1857):

歌曲“むだな誘いをかけないで”

エレナ・オブラストワ(メゾ・ソプラノ)/アレクサンドル・エローヒン(ピアノ)

(1975.11.11 リスト音楽院大ホールでのLive)

カミーユ・サン＝サーンス(1835～1921):

歌劇“サムソンとデリラ”～第2幕 “あなたの声に心は開く”

エレナ・オブラストワ(メゾ・ソプラノ)/森 正指揮東京フィルハーモニー交響楽団

(1980.5.20 東京文化会館大ホールでのLive)

カール・ニールセン(1865～1931):

交響曲第4番“不滅”～後半

サイモン・ラトル指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

(2007.6.1 ウィーン・ムジークフェラインザールでのLive)

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770～1827):

合唱幻想曲ハ短調op.80

マルタ・アルゲリッチ(ピアノ)/小澤征爾指揮サイトウ・キネン・オーケストラ/東京オペラシンガース

ナタリー・シュトゥットマン(コントラルト)/マティアス・ゲルネ(バリトン)/リディア・トイシャー(ソプラノ)/福井 敬(テノール)他

(2015.9.1 キッセイ文化ホールでのLive)